

インフルエンザの流行に備える感染症対策とワクチン接種の重要性

2026 年 10 月度
衛生委員会資料
産業医
山元 俊行

1. はじめに（10 月にインフルエンザ対策を始める理由）

- **流行の早期化**：例年、インフルエンザは 11 月～12 月頃から本格的に流行が始まりますが、今年は、流行が早く、滋賀県内もすでに流行期に入っています。
- **抗体がつくまでの期間**：ワクチン接種後、効果（抗体）が出るまでに**約 2 週間**かかり、効果は**約 5 ヶ月**間持続します。
- **10 月～11 月の接種が推奨**：本格的な流行シーズンに備え、10 月中旬から 11 月中旬までに接種を完了させるのが理想的です。

2. 今シーズンのインフルエンザワクチンについて

- **4 種類の株に対応**：製造されるワクチンは、そのシーズンに流行が予測される A 型 2 種類、B 型 2 種類の計 4 種類のウイルスに対応しています。
- **発症・重症化予防効果**：ワクチンは感染を完全に防ぐものではありませんが、「**発症率の低下**」や、万が一感染した場合の「**重症化（肺炎や入院など）を防ぐ**」高い効果があります。
- **出勤停止による影響の最小化**：職場内でのクラスターを防ぎ、業務への支障を最小限に抑えるためにも計画的な接種が有効です。

3. 職場で行う基本的な感染対策

ワクチン接種とあわせて、以下の基本対策を継続しましょう。

- **こまめな手洗い・手指消毒**：ドアノブや共用部からの接触感染を防ぎます。
- **適切な換気**：密閉空間を避け、空気を循環させます。
- **体調不良時の出勤抑制**：発熱や咽頭痛などの症状がある場合は、無理に出勤せず受診・療養を優先してください。

4. 従業員の皆様へのお願い・まとめ

- **計画的な接種の検討**：かかりつけ医や職域接種などを活用し、早めのワクチン接種をご検討ください。
- **体調管理の徹底**：睡眠・栄養を十分にとり、免疫力を維持しましょう。